

平成29年度第2回会議議事要旨  
(平成30年3月29日開催)

平成30年12月

南 城 市

## 1. 「おでかけなんじい」の運行・利用状況について

番号	委員	事務局
1-1	予約の断りとキャンセルの違いを教えてください。	予約の断りというのは、電話を受けた時点で受付側の都合で断ることを指し、キャンセルは、予約をしたが、本人の都合で断ることを指す。
1-2	曜日で利用状況に違いなどがあれば教えてください。	年金の支給のときや、週の初めは利用が多くなる傾向があるが、極端に多くなるわけではない。

## 2. 平成 30 年度「おでかけなんじい」運行計画(案)について

番号	委員	事務局
2-1	13 時台は利用者数が少ないにも関わらず、予約を断る人数が多くなっているが、その理由を教えてください。	13 時台は交代や引継ぎがあるため、オペレータが予約をあまり多く受け付けないようにしており、需要を満たせていない状況となっている。
2-2	車のリースは 5 年間だったと思うが、現状で満員になることはほとんどなかったかと思う。次回更新の際は、小さな車両にすることを議題にしなくてよいのか。	車両のリース期間が平成 31 年の 11 月までとなっており、更新の際は、運営に見合った規模の車両にしたい。
2-3	公共交通便りを全世帯に配布する時に、おでかけなんじいの車内にも置いてほしい。	次回配布時は車内で見られるように対応する。

### 3. 地域公共交通再編の考え方について

番号	委員	事務局
3-1	沖縄バスの36番糸満与那原線は、那覇方面にルートを変えるのか、それとも既存のルートのままか。	36番系統は本数が少なく、知念高校生が主な利用者であるが、近隣市町村も含めた調整が必要であり、見直しを提案していきたい。
3-2	36番系統には、糸満高校と沖縄水産高校に通っている生徒も利用しているので、再編は慎重にされた方がよい。	近隣市町村との連携も含め、いろいろな角度から36番系統の再編を考えていきたい。
3-3	南城市では利用しやすい料金について、平成30年度中にとりまとめるのか。	平成30年度中に料金やルートをどのように再編するかを決定する。その後、国へ再編認定申請を行うことになる。
3-4	他県の事例で、隔日運行の例があるが、利用者の利便性が低下し、乗らなくなる可能性があるのではないか。	一台の車両を曜日に分けて運行するという苦肉の策であり、限られた車両で生活の最低限の足を確保している状況のようだ。
3-5	再編実施でどこまで細かく決めなければならぬかがわかりにくい。	平成31年3月までに策定するためには、年内でルートやダイヤがある程度、調整されていなければならない。スケジュールが厳しいがバス事業者の皆様にはご協力いただきたい。
3-6	どのようなことを決めるのかを、関係者で共有していた方がよい。等間隔運行などで利便性があがるイメージを見せるなど、見せ方も大事である。	路線に関してはバス会社との個別の調整になるので、この場で議論することができない。各事業者とは調整をすすめていきたい。
3-7	基幹的なバスは、バス事業者それぞれが再編するとして、運賃についてはこの会議の中で決定できるのか。それとも個々で申請するのか。	この会議で再編計画を決定すれば、一つの計画で複数社の路線の許可も可能になる。運賃に関しても当然必要な資料については審査する。(運輸局回答) 運賃は通常と異なり、会議で承認が得られる。ただし地域の利用者が過度の負担にならないよう、また、他の事業者と不当競争を引き起こす恐れがないように留意が必要。(運輸局回答)